

令和5年度広島県大学図書館協議会事業報告

1. 会議

- (1) 令和5年度総会
日時：令和5年7月6日（木）
会場：尾道市立大学 E 棟 204 教室
- (2) 役員会（オンライン）
令和6年6月21日（金）
- (3) 研修企画委員会（オンライン）
第1回：令和5年8月7日（月）
第2回：令和5年10月19日（木）
第3回：令和6年6月3日（月）
- (4) 共同リポジトリ委員会（オンライン）
第1回：令和5年10月23日（月）
第2回：令和6年1月30日（火）
- (5) 広島県内図書館連絡会（オンライン）
令和6年3月14日（木）

2. 研修会

第1回

日時：令和5年9月20日（水） 13:30～17:00
会場：広島大学東千田キャンパス地域連携フロア SENDA LAB
テーマ：「図書館の広報デザイン【実践編】」
参加者：17 機関 27 名

第2回

日時：令和5年12月12日（火） 13:30～16:00（オンライン）
テーマ：「情報リテラシー教育のつくりかた」
参加者：19 機関 40 名

3. その他

- (1) 協議会ホームページの移行、ひとめマップの更新（→google map へ）
新 URL：https://haul.hiroshima-u.ac.jp/
- (2) 共同リポジトリ（HARP）の JAIRO Cloud への移行対応を経て、運用終了
- (3) 全国大学ビブリオバトル広島地区決戦の開催

令和5（2023）年度広島県大学図書館協議会研修企画委員会活動報告

1. 研修会

第1回

日 時：令和5年9月20日（水） 13：30～17：00

開催場所：広島大学東千田キャンパス 地域連携フロア SENDA LAB

テ ー マ：「図書館の広報デザイン[実践編]」

目 的：講師を招いて訴求力のある広報デザインとは何かを学び、さらにワークを通して実践力を鍛えることによって魅力的な広報を行えるようになる。

内 容：

- ・講 演「リバイバル 日々の仕事のアウトプットを『共感』から見直す」
講 師 高須 佳奈氏（島根県立大学人間文化学部准教授・キャリア戦略推進室長）
- ・ワークショップ「もやもやワーク」

参 加： 17 機関 27 名

アンケート結果

<https://haul.hiroshima-u.ac.jp/1386>

第2回

日 時：令和5年12月12日（火） 13：30～16：00

開催方法：オンライン

テ ー マ：「情報リテラシー教育のつくりかた」

目 的：悩みや課題を共有する中で自館の現状を振り返り、また先進館における情報リテラシー教育の基本的な考え方や具体的な取り組みに触れる中で次のステップへ進むための手がかりを得る。

内 容：

- ・事例発表
報告者 安田女子大学 森 友樹氏、福山市立大学 佐藤 八千代氏、
県立広島大学 山守 知子氏
- ・講 演「東北大学附属図書館の情報リテラシー教育支援」
講 師 藤澤 こず江氏（東北大学附属図書館学習支援係長）

参 加： 19 機関 40 名

アンケート結果

<https://haul.hiroshima-u.ac.jp/1575>

2. 評価と課題

第1回

第1回研修会では講師を招き、訴求力のある広報デザインとは何かを学び、さらにワークを通して実践力を鍛えることによって魅力的な広報を行えるようになることを目標とした。研修会では、講師の説明を聞き、実際にパワーポイントを操作してみるという方法ですすすめられた。

アンケートの回答を見ると、「満足」「ほぼ満足」とあり、好評であった。

「広報についての基本的な考え方や具体的なテクニックなど実践で活用できる内容で、大変

有意義な研修会だった」「広報資料を作成する際の手順や注意点など、自分だけではわからないことを学ぶことができた」「デザインは、問題解決を提供するもので見た目の良さは結果に過ぎないということで、取り組み方を変えていこうと思った」といった感想が多くみられ、研修会の目的は達成できたと思われる。

課題としては、ワークの際の雰囲気作りと参加者への事前連絡の徹底があげられる。今回のワークでは、面識がない参加者同士が気楽に話し合えるような雰囲気作りが充分でなく、積極的に交流できたというまでには至らなかった。またワークで使用するパワーポイントについて、最新バージョンを利用することやバージョンが異なる場合に操作性が変わることを十分に周知できておらず、参加者が戸惑う様子が見られた。今後の改善点として検討していきたい。

第2回

第2回研修会では、悩みや課題を共有する中で自館の現状を振り返り、また先進館における情報リテラシー教育の基本的な考え方や具体的な取り組みに触れる中で次のステップへ進むための手掛かりを得ることを目標とした。

アンケートには、次のような感想が見られ、研修会の目的は達成できたと思われる。

- ・各大学の具体的な実施方法を紹介していただけたので、自館での取り組みと比較しながらお話を伺えた。ガイダンスの実施時期や検索の実施の導入について早速検討したい。
- ・情報リテラシー教育の最前線で活躍されている大学のお話を伺えて大変勉強になった。
- ・他部署との連携方法について項目ごとに事例を提示され、とても分かりやすかった。
- ・具体的な事柄に触れた講演だったので、ぼんやりとはあるが、これから目指すべき情報リテラシー教育のイメージを持つことができた。
- ・学部・研究科の教育内容の把握や情報リテラシー教育で担うべく役割を意識することが大切だと感じた。何を図書館に求めているかを予測しながら、業務を行いたい。
- ・ヒントになるきっかけを模索している中で参加をしたので、有意義な研修会だった。

また、「実際のガイダンスを対面で受けてみたい」「今後も他大学の事例を聞く研修会を企画してほしい」といった意見も見られた。今後の研修会の企画に活かしていきたい。

開催方法について

新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着き様々な研修会が対面形式へと移行しているが、オンライン形式であれば業務に支障なく参加できるという館も多くあるため、開催方法については、テーマや内容に応じて対面形式かオンライン形式かを選択していきたい。

令和5年度共同リポジトリ委員会活動報告

○第1回委員会

日 時 令和5年10月23日（月）13時30分～14時15分

場 所 オンライン会議、広島大学中央図書館 会議室

出席者 5機関 7名参加

1. 報告

(1) HARP としての情報共有の場について

広島大学 山根より、資料1に基づき報告があった。

(2) HARP から JAIRO Cloud への移行状況について

広島大学 山根より、資料2に基づき報告があった。

2. 協議

(1) 共同リポジトリ会費残金の扱いについて

広島大学 山根より、資料3に基づき説明があり、協議を行った。また、HARP サーバは10月31日（火）に停止予定だが、サーバ処理費用は不要となったとの説明があった。

協議の結果、「共同リポジトリ会費残金の扱い（案）」に沿って対応を進めることが了承された。

その他

委員長から、今後のスケジュールについて以下の通り説明があった。

- ・準備ができ次第 HARP に参加されていた館宛に意向調査を送付し、その結果を受け、令和6年度県大図協総会に提出する資料（案）を作成した上で、第2回共同リポジトリ委員会を年明け頃に開催し、審議をお願いする予定である。
- ・共同リポジトリ委員会は、令和6年度県大図協総会で廃止となる予定である。

○HARP システムを停止

15機関全ての JAIRO Cloud への移行が完了したため、令和5年10月31日に HARP システムを停止した。

○意向調査の実施

期間：2023年10月26日～11月30日

共同リポジトリ参加機関に対し、会費残金の返金方法について意向調査を行った。

○第2回委員会

日 時 令和6年1月30日（金）10時30分～11時5分

場 所 オンライン会議、広島大学中央図書館 会議室

出席者 5機関7名参加

協議

（1）共同リポジトリ会費残金の扱いについて

広島大学 山根より、資料1に基づき説明があり協議を行った。協議の結果本件を令和6年度広島県大学図書館協議会総会に諮ることが了承された。

（2）共同リポジトリ委員会の廃止について

広島大学 山根より、資料2に基づき説明があり協議を行った。協議の結果本件を令和6年度広島県大学図書館協議会総会に諮ることが了承された。

（3）令和5年度共同リポジトリ委員会活動報告について

広島大学 山根より、資料3に基づき説明があり協議を行った。協議の結果、第2回委員会の議事要録が確定後に該当部分を追記し、令和6年度広島県大学図書館協議会総会での報告資料とすることが了承された。

その他

委員長から、HARP メーリングリストの必要性について委員の意見を求める発言があり、意見交換を行った。その結果、今後1年程度利用状況を見た上で扱いを検討することとした。

以上

全国大学ビブリオバトル 2023 ビブリオバトル地区決戦（中国 D・E ブロック）報告

1. 概要

日時：令和 5 年 11 月 11 日（土）13：30～16：00

場所：広島大学東千田キャンパス地域連携フロア SENDA LAB

司会：稲角祐子（広島市立大学附属図書館）

2. 紹介本・バトラー ◎：チャンプ本

Dブロック

| 発表順 | 紹介本 | バトラー |
|-----|--------------------------------------|---|
| 1 | 有川浩『海の底』 (2009年 角川グループパブリッシング) | 福山大学人間文化学部 2年 角 遥名 (すみ はるな) |
| 2 | D. オーエンス『ザリガニの鳴くところ』 (2023年 早川書房) | 県立広島大学生物資源科学部 3年 峪口 彩寧 (さこぐち あやね) |
| ◎3 | 綾辻行人『十角館の殺人』 (1991年 講談社) | 広島工業大学大学院工学系研究科 M1年 川上 健瑠 (かわかみ たける) |

Eブロック

| 発表順 | 紹介本 | バトラー |
|-----|---|---|
| 1 | 有川浩『図書館戦争』 (2006年 KADOKAWA) | 福山市立大学教育学部 2年 渡邊 さくら (わたなべ さくら) |
| 2 | 茂市久美子『ゆうすげ村の小さな旅館』 (2000年 講談社) | 広島大学大学院 先進理工系科学研究科 M2年 山本 健太 (やまもと けんた) |
| ◎3 | R. J. パラシオ『もうひとつのワンダー』 (2017年 ほるぷ出版) | 広島市立大学国際学部 1年 大島 粹 (おおしま すい) |

3. 参加者数 30名

4. 気づき等

・各大学の担当者と事前にオンラインミーティングを行って手続きや当日の流れを確認することでスムーズに開催できた。

・当初 1 ブロックで開催する予定であったが、他ブロックとの人数の均衡を図るため 2 つに分けてはどうかという委員会からの示唆を受けて 2 ブロックで開催した。

各ブロックごとに投票を行い、開票は最後にまとめて行った。

・投票はオンラインフォームから行った。
各参加者に QR コードを配布し、一意の番号を入力させることで送信漏れを防ぐように工夫した。特に混乱なく迅速に集計することができた。

・次年度開催のさいも、学生の参加しやすい日程等を早めに検討することが必要。



バトラー記念写真